



夏越の大祓式（茅の輪くぐり） 令和3年6月30日



発行所
〒010-0946
秋田市川尻総社町14-6
総社神社
<http://sosha-j.jp>

混迷の時代



総社神社 宮司
川尻 孝紀

混迷の時代に突入したかの様相を呈しています。

我が日本はどうでしょうか。

今年、昭和二十年の大東亜戦争終結から七十六年を経過しました。

経済的発展はしてきたものの今の日本は先行きの道筋を示す事ができず先人が築いてきた知識・技術など有形無形の財産が多方面から狙われる状況にあります。

精神的な面でも自由や民主主義の名の元に隠れ、個人の権利主張や価値観が勝り公的道徳心や国家観が希薄化しているように思えます。

今は、混迷の時代に生きています。言つて過言ではないでしょう。

我々の祖先が歩んできた国の栄光と苦難の歴史を今一度顧みて行く先の目標を定めたいと考えます。

日本の伝統的価値観が現在国連でも見直されています。自然を尊び、祖先を敬い、国家、地域、家族を愛し、諸国と睦び親しむ。どの国の人々にも共有できる価値観が今正に求められています。日本を取り戻すとは、このような事を指しているのではないのでしょうか。

昨年の年明けから始まった新型コロナウイルス感染症は、今年も収束どころか全国的に拡大を続けています。今後どうなるのか予断を許さない状況です。

世界最大のスポーツイベントであるオリンピックとパラリンピックはコロナ禍の中、どうにか大きな混乱なく終えることができました。

しかしながら、世界に目を向けると中国の台頭により、世界の一強であったアメリカは、平成十三年（二〇〇一年）の九月十一日に起こった同時多発テロ事件によりイスラム過激派を排除すべくアフガニスタンに侵攻駐留してきたが、遂に今年八月末を以て軍隊を引き上げてしまいました。

世は中国の三国志を想起させる

祭礼行事曆
 令和三年元日～令和三年十月

- 一月 元旦 歳旦祭
 青年会新年祈祷
- 十一日 どんと祭(成人の日)
- 十四日 ブラウブリッツ秋田
 必勝祈願祭
- 十九日 月次祭
- 二月 二日 節分祭(神前祭祀のみ)
 十九日 祈年祭並びに月次祭
- 三月 十九日 月次祭
- 四月 十日 第一回境内清掃奉仕
 十七日 神社青年会総会
 十九日 月次祭・疫病鎮静祈願祭
 崇敬会総会
 二十九日 昭和祭及び第三十回
 秋田県出身特攻隊招魂祭

- 五月 八日 第二回境内清掃
 十八日 春季例祭宵宮祭
 十九日 春季例祭当日祭
- 六月 五日 第三回境内清掃
 七日 秋田県鳶土木連合会
 安全祈願祭
- 十九日 月次祭
- 二十日 鹿嶋祭り(神前祈禱)
 西表町・昆沙門町・肝煎町
 夏越大祓式
- 七月 三十日 夏越大祓式
- 七月 十日 第四回境内清掃
 十九日 月次祭
- 八月 七日 第五回境内清掃
 十九日 月次祭
- 九月 十一日 第六回境内清掃
 十九日 月次祭
 二十二日 観月祭

- 十月 九日 第七回境内清掃
 十八日 秋季例祭宵宮祭
 十九日 秋季例祭当日祭
- 十一月 十五日 七五三参り
 十九日 月次祭
 下旬 干支大絵馬揮毫

十一月以降の祭礼行事予定



- 十二月 第一日曜 干支大絵馬奉納式
 十九日 月次祭
 下旬 煤払い
 二十八日 餅つき行事
 青年会・敬神婦人会奉仕
 大晦日 師走大祓式



総社神社のご祭礼

★本年も昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、神社の祭礼行事を始め、地域の諸行事が中止に至る状況となりました。

神社では、毎朝の日供祭及び毎月十九日に斎行する月次祭において新型コロナウイルス感染症鎮静祈願を行っております。一日も早い日常が戻りますようご祈念いたします。

「第三十回・秋田県特別攻撃隊招魂祭・ 昭和の日記念祭」に参加して



財団法人特攻戦没者慰霊顕彰会

会員 高橋 暢

一 招魂祭

令和三年四月二十九日(日)正午より、総社神社(秋田県秋田市川尻総社町十四の六・川尻孝紀宮司)に於いて、「第三十回・秋田県特別攻撃隊招魂祭・昭和の日記念祭」が秋田県特別攻撃隊招魂祭実行委員会の主催で行われた。

来賓として、出版社社長でNPO法人「ふるさとにつぼんプロジェクト」理事長の倉秀人氏、ジャーナリストの上島嘉郎氏、俳優の上島尚子氏、ジャーナリストの葛城奈海氏、歌手のSAYA氏を迎え、参加者は総勢約二十名であった。

今回は記念すべき第三十回目の招魂祭であったが、新型コロナウイルス感染症予防のため参加人数を制限し、感染対策に万全を期しての開催となった。

朝のうち強かった雨脚も徐々に回復はしていたが、依然として雨雲が低く垂れ込め、いつまた降り出してもおかしくない空模様だった。

十一時半頃、私が総社神社の広大な境内の一角に設けられた式典会場に行くと、誰よりも早く藤本光男さんが来場された。

走り寄って挨拶をすると「今年、九十五歳!」、と元気な笑顔でお答えになる。杖を使っではおられるが、姿勢はいまだに元帝国軍人のそれであり、耳もはっきり聞こえるし頭脳も明快である。

藤本光男さんは第十二期海軍甲種飛行予科練習生出身の元偵察員。海軍明治基地で夜間戦闘機「月光」に乗ってB29邀撃戦に参加。その

後、藤枝基地に移り、夜間戦闘機型「彗星」で昼夜逆転の過酷な訓練に明け暮れた。招魂祭では、平成五年から追悼の言葉を読まれている。

正午、招魂祭開式。一同、昭和天皇武蔵野御陵を遥拝。雅楽による国歌吹奏。そして佐々木三知夫さんによつて「国の鎮め」のラッパが奉納された。

佐々木さんは元秋田県庁職員で、現在は、障がい者のためのNPO法人「あゆみの会」や、企業組合農藝舎、農事組合法人新田水稲生産組合などの代表理事として、秋田県の農業、貿易、福祉と幅広い活動をしている。

高校、大学とトランペットを吹いていた佐々木さんは、本招魂祭初代主宰者・故舩谷健夫さん(元・第三特攻隊震洋隊隊員)の講演を聞いた事が縁で、「国の鎮め」のラッパ奉納を行うようになった。

佐々木さんの使用するラッパは、サイパン島の戦いの際に米海兵隊の兵士が戦利品として日章旗と共に持ち帰ったもので、その後、在米日本人を介して五十年ぶりに日本

に返却された「里帰りラッパ」である。

日章旗に「秋田」の添え書きがあったことから秋田県庁に問い合わせがあり、当時国保援護課勤務だった佐々木さんが調査にあたった。その結果、日章旗は遺族の元に返すことができたが、ラッパの持ち主はついに判明しなかった。

ラッパは持ち主不明のまま、秋田県遺族会館、陸上自衛隊秋田駐屯地資料館などで保管され、今は佐々木さんが県庁退職後に立ち上げた「秋田ふるさとづくり研究所」事務所内に「里帰り神社」御本尊として祀られている。

この「里帰りラッパ」は、本招魂祭のほか、戦友会、遺族会、シベリア抑留戦没者を慰霊する抑留回想平和記念碑での慰霊祭などで、「国の鎮め」を奏でている。

「かれこれ二十四、五年、このラッパで『国の鎮め』を吹いているが、なかなかうまく吹けない。でも今日はどうやら上手く吹けました。」佐々木さんは式後に穏やかに微笑んで

いた。

「国の鎮めに続き、神事、神前神樂の奉納が行われ、続いて、司会の小野立さんが、秋田県陸海軍特別攻撃隊五十六柱のご芳名を朗読した。

司会の小野さんの曾祖父は、戦争当時、能代八幡神社近くで料亭を経営しており、陸軍能代飛行場(東雲飛行場)で訓練する若い特攻隊員達が前線基地向かう際には、私財を投げ打って盛大な壮行会を開催し、八幡神社での必勝祈願にも参列して、特攻隊員達を見送ったと言う。

現在、能代八幡神社には特攻勇士の像が建立され、毎年六月二十日に「東雲飛行場戦歿者慰霊祭」が陸士六十期の武田安一さんを主催者として行われているが、小野さんは同慰霊祭運営を長年にわたって補佐しており、武田さんの意志を次世代に引き継ごうと活動している。

英霊ご芳名朗読に続き、藤本光男さんが追悼の言葉を朗読した。冒頭で藤本さんは、第十二期甲種飛行予科練同期の特攻隊員六名に呼びか

けた。

昭和十八年六月一日に土浦航空隊の門をくぐり、九ヶ月に渡る厳しい訓練を共にした同郷の戦友達。七十六年前、硫黄島に、沖繩に、そして宮城県沖に、若い命を散華させた若鷲たちである。

信太廣蔵少尉(大正十四年四月二十一日生・二十一歳没)は能代市出身。神風特別攻撃隊第二御盾隊・天山雷撃隊第四小隊四番機偵察員として、昭和二十年二月二十一日正午に八丈島より出撃。十六時から十八時の間に硫黄島周辺の敵艦船に突入散華した。

高橋忠少尉(大正十五年七月十日生・二十歳没)は山内村(現横手市)出身。神風特別攻撃隊第二八幡護皇隊・九七式艦攻隊一番機電信員として昭和二十年四月十二日午前十一時から正午にかけて僚機二十一機と共に串良基地より出撃。一四四一「我戦艦ニ体当リス」と打電し、沖繩周辺海域で突入散華した。

北市)出身。神風特別攻撃隊神雷部隊第九建武隊隊員。五百キロ爆装の零戦操縦員として、四月二十九日十四四二、鹿屋基地より出撃。一七二一「我空母ニ突入」を打電し、沖繩本島東方の敵艦船群に突入散華した。

角館町(現仙北市)出身の石橋賢司少尉(大正十五年六月十三日生・二十歳没)は神風特別攻撃隊菊水雷桜隊・天山雷撃隊第四小隊二番機電信員として、

大曲市(現大仙市)出身の桑野正昭少尉(昭和二年二月二十三日生・十九歳没)は同隊第一小隊一番機電信員として、昭和二十年五月十一日〇五四八、串良基地より天山艦攻十二機で出撃。同〇九〇六、石橋一飛曹(当時)より「敵飛行機見ユ」との打電を最後に、沖繩本島西方で散華した。

小松文男少尉(昭和二年一月三日生・十九歳没)は湯沢市出身。神風特別攻撃隊第七御盾隊第二次流星隊二番機偵察員として、八月九日一四一五に木更津基地より出撃、

二五二〇敵空母見ユ」と打電し、宮城県金華山沖の敵航空母艦に突入散華した。

予科練の厳しい生活の中で、入浴は一息つける数少ない憩いの場だったそうだ。

丸坊主に丸裸。皆同じように見えるのだが不思議と見分けが付き、湯船では自然と同郷同士が固まって、そこそこにお国訛りの話に花が咲いたと言う。

能代市出身の藤本さんは、角館出身の山本英司さんと馬が合い、バス(湯船)では良く互いの故郷の話をしたそうだ。角館と言えば武家屋敷と桜並木。藤本さんが角館の桜を褒めると、山本さんはバスにつかって目を細めた。

山本英司さんは運動神経抜群。神宮競技場で行われた全国体育大会に予科練代表選手として出場し、観衆の前で見事な予科練体操を披露した。生真面目で不正を許さない厳格な男。それでいて性格はさっぱりしていた。山本さんは操縦専修に進

み零戦乗りとなった。

実は昨年の本招魂祭は、新型コロナ感染症の影響で、神職と招魂祭実行委員長の山本高敬さん、舛谷政雄さんのみで行われ、恒例のシンポジウムは中止となった。

そこで舛谷さんはシンポジウムの代わりの特別企画として、映像作家の阿部輝忠さんと共に、藤本さんのインタビューを含む動画映像を制作し、インターネットで公開した。

すると、それを観た宮城県のある高校から「ぜひ藤本さんのお話を生徒に聞かせたい」と言う申し出があり、昨年十二月、秋田を訪れた高校生達を前に、藤本さんがご自身の戦争体験を語る機会があった。

当初、藤本さんは、現代の若者に自分の話が伝わるかどうか半信半疑だったと言うが、高校生達は藤本さんの話に興味に耳を傾け、後日、彼らから丁寧な礼状が届いたと言う。

歴史の教科書でしか知らない戦争。その戦争を実際に戦った藤本さ

んの話を直接聞く事は、高校生達にとってこの上なく貴重な体験だったに違いないし、藤本さんにとっても、ご自身の想いが現代の若者に十分通じた事は大きな喜びだったのではないだろうか。

追悼の言葉の中で藤本さんは、過日の高校生達との交流を、同期生達に報告するのだった。

藤本さんの追悼の言葉に続き、大西瀧次郎海軍中将の遺書が実行委員長の本高敬さんによって朗読され、続いて、来賓の倉秀人さん、上島嘉郎さん、上島尚子さん、葛城奈海さん、SAYAさんらによる玉串拝礼が行われ、撤饌の儀、昇神の儀をもって神事が終了した。

神事に続き特攻隊員の遺書の朗読が行われた。最初に関豊興海軍大尉の遺書が、葛城奈海さんによって朗読された。

関豊興海軍大尉は大正十二年一月二十一日、鹿角市生まれ。明治学院大学在学中に学徒出征し第十四期海軍予備学生となった。横須賀海

軍航海学校在学中に「回天」搭乗員を志願。

昭和二十年七月十四日、伊第五十三号潜水艦を母艦とする神潮特別攻撃隊多門隊隊員として山口県大津島基地より出撃。八月四日、フィリピン・エンガノ岬沖で体当たり攻撃を敢行し、米海軍護衛駆逐艦アールV・ジョンソンを損傷させた。

父上様 母上様

二十三星霜の御高恩、心より御礼申上候。万感胸に到りて、一句も無之候。何卒、意中、御察被下度候。

父母上様の御健康を神かけて祈りつつ、出撃致す心算に候。

峰高き五の宮の山、そのよはひ

我がたらちねの父母にこそやれ

風邪引くな さむからぬかと

我が夜着をたれかとりみん

父母ならずして

追伸

大館にての写真、並に御守、有難く頂戴仕候。多聞とは楠公幼時の名前にて候。本隊の回天隊も頼山陽の

楠公論の所に見ゆる如く、天日の既にかくるるを回すより起きたる名にて候。

同書並にハンカチの血は小生の血にて書けるものにて候。菊水の流れの如く、七生報国を誓い申上候。

続いて、伊藤甲子郎陸軍少尉の遺書がSAYAさんによって朗読された。

伊藤甲子郎陸軍少尉は、大正十四年一月二日、横手市生まれ。昭和十六年十月東京陸軍航空学校入隊。熊谷飛行学校第十三期少年飛行兵・操縦。

昭和二十年六月八日、特別攻撃隊第四十八振武隊隊員として、一式戦闘機「隼」で知覧基地より出撃。沖縄周辺海域で敵艦船に体当たり攻撃を敢行した。

「落下傘の切れ端に書いてあった書」

いざ故郷に帰へらむ

何時の日も、何時の日も

楽しかりし、吾が村

常に吾が喜びなりし

さらば故郷
さらば父母 妹 弟よ

懐かしの山

思い出の川

別れの言葉 残して今

告國の為に 吾は征く

甲子郎

歌手として活動するSAYASさんは、伊藤少尉の遺書の朗読の前後に、「秋田県民歌」と「ふるさと」を独唱献歌した。

昭和五年に制定された「秋田県民歌」は、山形県民歌、長野県民歌と並び三大県民歌と称される。作曲は秋田県出身の成田為三、歌詞は公募され、秋田県出身の倉田政嗣の歌詞が採用されたが、その歌詞を補作したのが「ふるさと」の作詞者である高野辰之であった。

昭和五十七年、舛谷健夫さん、舛谷ヤスエさん夫妻がライフワークとしていた「秋田県戦没者芳名録」の最後の贈呈式の際、プロの歌手に依頼して秋田県民歌を歌ってもらった。その際、受付を担当してい

た若き舛谷政雄さんに遺族から、「ふるさと」も歌って欲しかったという要望があったと言う。

今回の「秋田県民歌」と「ふるさと」の二つの献歌は、父健夫さんと母ヤスエさんの功績への感謝と、あときの遺族からの要望に応える形として、三十九年越しに政雄さんの思いが実現したものであった。

式典は舛谷政雄さんによる主催者挨拶。実行委員長の山本高敬さんによる聖寿万歳。SAYASさんによる「海ゆかば」の独唱をもって終了した。

葛城奈海さん、SAYASさんによる遺書朗読の頃からは再び雨脚が強まり、それがあたたかも英霊が天で涙しているかのようにであった。

二 シンポジウム

招魂祭終了後、秋田パークホテルに会場を移して、「第三十回秋田県特攻慰霊シンポジウム」が開かれた。こちらも座席を開けて消毒を徹底するなど、感染対策を万全にしての開催だった。

シンポジウムの冒頭、本荘市出身の特攻隊員植村正次郎中尉の妻の良さんりょうから舛谷健夫さんに届いた手紙(秋田県海軍戦記「ツバサ広業出版部掲載」)が、女優の上島尚子さんによって朗読された。

上島尚子さんは、鹿児島鹿屋市出身。母親の実家は、かつて海軍御用達だった「富久屋」と言う和菓子店であり、鹿屋基地で出撃を控えた特攻隊員も良く訪れていたそうだ。出撃の際、特攻隊員達は上島さんの祖父の心尽くしのタルトを機上に持つて飛び立つて行ったと言う。

小さい頃から特攻や特攻隊員のことを耳にすることが多かった上島さんにとって特攻隊は身近な存在だったそうだ。上島さんは平成二十年に靖国神社で行われた奉納野外劇「俺は、君のためにこそ死にに行く」にも出演されている。

植村正次郎中尉は大正九年一月三日、本荘市に生まれた。

撃墜王・西澤廣義中尉と同期の第七期海軍乙種飛行予科練習生。ミッドウェー海戦では、空母「蒼龍」乗組

の艦攻操縦員として奮戦。その後陸攻操縦員となった。

昭和十六年に同じ本荘市出身の菊池良さんと入籍。昭和十八年には長男を授かり、親子三人水入らずの幸せな生活を送るが、昭和二十年三月二十一日、野中五郎少佐を指揮官とする神風桜花特別攻撃隊神雷部隊陸攻隊、第二中隊第一小队三番機の操縦員として鹿屋基地より出撃。四国沖の米機動部隊攻撃に向かう途中、米戦闘機の攻撃で散華した。

舛谷健夫さんに届いた良さんからの長文の手紙には、夫・正次郎との生活は短いものであったが、その限られた日々がいかに尊いものであったか、そして夫との思い出、夫が残した言葉や手紙が、戦後の自分をいかに勇気づけてくれたかが綴られており、上島さんの印象的な朗読と、当時の写真や資料映像、音楽とのコラボレーションによって、一つの物語のように感動的に披露された。

続いて、三十周年記念フォーラムとして、ジャーナリストの上島嘉郎

さんをコーディネーター、藤本光男さん、倉秀人さんをゲストとして「キミガタメ、今こそ英霊の想いを語り継ぐ」が開催された。

上島さんが次世代の日本人に伝えたいことについてお二人に尋ねると、藤本さんは「日本が明治以来、欧米列強と戦って独立を保った民族の誇りを忘れないで欲しい」と語り、倉さんは「自身が代表を務めるNPO法人の活動を通じて、三代先の子供達に正しい日本の歴史を伝えていきたいと熱く語った。

倉秀人さんは、健康、食育、社会問題、会社案内など多岐にわたるジャンルをマンガで伝えるユニークな出版社の社長であり、NPO法人「ふるさとにつぼみプロジェクト」代表として、マンガで子供達に日本の歴史を伝える活動を精力的に行っている。ご自身は鹿児島県出身で、高校時代に教えを受けた先生は、戦時中、特攻隊員の世話をしていた。

かくばかり 醜き国に なりた

るか 捧げし人の ただに惜しまる

昭和万葉集に納められたこの歌を初めて知ったとき、倉さんは大変な衝撃を受けたと言う。

「この歌の通りだ。こんなみっともない国にするために二百四十六万柱の英霊が死んだはずがない。」

倉さんは、自分独自のやり方で次世代の子供達に日本人の伝統と誇りを伝えるため、歴史マンガの制作を始めた。

真珠湾攻撃の九軍神の慰霊祭を継承する人々の物語。人間魚雷「回天」隊員と回天の母、重さんの物語。「エルトゥールル号」の逸話から見るトルコと日本の友好の物語。

歴史の教科書では触れないが、日本人として是非知って欲しい歴史的な題材をマンガ化し、子供達に配布している。歴史マンガのラインナップは今後もさらに増えていく予定だ。

今回の秋田県特別攻撃隊招魂祭ならびにシンポジウムの大きなテーマは、「いかにして先人の想い

を次世代に語り継いでいくか」ということであった。招魂祭での英霊の遺書朗読、シンポジウムでの英霊の妻の手紙の朗読には、「いかにして後世に顕彰するか」と言う、主催者舩谷政雄さんの深い思いがあった。

ご尊父健夫さんが秋田県特別攻撃隊忠魂碑を建立されてから三十年の時が過ぎ、健夫さん始め、旧帝國軍人、ご遺族など、あの戦争を経験した人々が一人また一人と亡くなった。これまでの世代は戦争経験者から話を聞く事ができたが、これからの世代はその機会もなく、ますますあの戦争が歴史の一ページとして遠くなるばかりだ。

「今回、遺書を何点か朗読し、令和に蘇った昭和の英霊の声として、今を生きる若者が先人たちに思いを馳せる端緒になつてもらえれば、父も安堵するだろうと信じ、仲間と相談して企画しました。」政雄さんは招魂祭の挨拶でそう述べた。

このような事情は本招魂祭に限らず、日本各地の慰霊祭に共通することではないだろうか。

あの戦争の記憶の分岐点にさしかかりつつある今、これからいかにしてこのような慰霊祭を継承していくかはまさに焦眉の急であり、その為にはどのように顕彰していくべきかを真剣に考えなければいけない大事な転機である。

今回、秋田県特別攻撃隊招魂祭ならびにシンポジウムに参加し、舩谷政雄さんの英霊の遺書朗読の取り組み、そして、倉秀人さんの子供達にマンガで歴史を伝える活動に、特攻隊慰霊・顕彰の新たなあり方の一つを見た気がした。

シンポジウムが終わってロビーに降りると、藤本さんがソファに座って実行委員長の山本高敬さんと談笑しながらタクシーを待つておられた。

杖の上に両手を乗せて座る藤本さんの背筋は真っ直ぐに伸び、実際のお歳より若い印象を受ける。

七十六年前、藤本さんは「月光」「彗星」の後部座席で、このように毅然と座って任務にあたっていた若



第30回秋田県特攻慰霊シンポジウム

千二十歳の若鷲だった。郷土秋田から予科練に入り、同期生と切磋琢磨しながら厳しい訓練に耐えて巣立った雛鷲は、地獄の飛練での訓練を経て、実施部隊での熾烈な空の戦の中で常に己の極限の力で飛翔し、一人前の荒鷲となった。そして今、藤本さんは、あの戦争を次の世代に語り継ぐ郷土最後の海鷲として、終わりのなき戦いを続けている。

ロビーの大きな窓越しに見える秋田の街は雨に濡れそぼり、その景

参考文献

『秋田県の特攻隊員』ツバサ広業出版部・非売品

『秋田県特攻隊招魂祭をふりかえって』ツバサ広業株式会社・非売品

『第十二期海軍甲種飛行豫科練修生戦死者の記録』石川知里・非売品

『人間爆弾と呼ばれて』文藝春秋

写真提供

ツバサ広業株式会社

尚、本稿は公益財団法人特攻戦没者慰霊顕彰会会報「特攻」(令和三年八月発行)第一三六号より転載許諾



第30回特攻招魂祭のご来賓

色の中にタクシーが到着するのが見えた。山本高敬さんと共に藤本さんをタクシーまでエスコートすると、藤本さんは軽く会釈して車上の人となった。

来年もまたお元気な姿で「今年、九十六歳！」と笑う藤本さんにお会いするのが楽しみである。

幼児施設と地域



学校法人山王学園 理事長 加賀屋久人

この度、社報「香雲」に寄稿する機会をいただきました。拙文ではありますが、何卒ご容赦ください。

学校法人山王学園(以下当法人)は、総社神社さんの近傍である山王中園町に昭和四十八年、山王幼稚園を開園したことから始まります。これまで多くの方々に支えられ、来年創立五十周年を迎えることとなりました。

川尻宮司には当法人の評議員として、日頃よりご助言・ご協力を賜っております。

幼稚園は満三歳からの入園ですが、昨今、少子・高齢化、人口減少が進み、労働人口不足のため、共働き夫婦の割合が飛躍的に高まっています。

た。出産してすぐに職場に復帰する保護者の方に対応すべく、二〇一五年に山王幼稚園は、〇歳児から保育できる認定こども園に移行し、園名も山王幼稚園・保育園に改めました。

園名は変わっても、園行事の時は川尻地区の交通安全協会の方が見守ってくださったり、地域のお祭りに園児をお招きいただいたりと、大変お世話になっております。

しかし、少子化と保護者の働き方の変化により、在園児の大半が近隣の小学校に一緒に進学するということが減ってきました。事実、山王幼稚園・保育園の卒園児も約二十以上の小学校へと別れて進学しています。中には越境で秋田市外から通園している園児もあり、「地元」「地域」という概念が非常に希薄になってきています。

その一方で、子どもの健全な発達には、防犯・防災や様々な経験をす

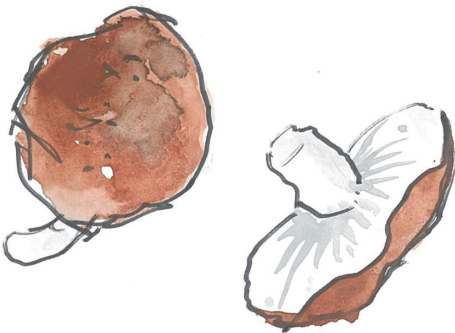
るといふ観点からも、幼児施設が地域の皆様と密接な連携を図っていくことが非常に重要です。卒園した子どもたちも、自然豊かな総社の杜でたくさん遊ばせてもらいました。

十年以上前になりますが、当法人の姉妹法人で他県に保育園を開園する際、地域の住民から大反対をされたことがあります。理由は「子どもの声は騒音だから」でした。高齢化が進んでいるエリアでしたので、かつては自分も子育てをしていたが、今は当事者ではないので関係ないという理屈です。とても悲しい気持ちになりました。

全国でも少子・高齢化先進県である秋田において、この先同様の事が起きる可能性があります。幼児施設は、その場に園児に来てもらわなければ保育・教育サービスの提供はできません。地域環境の変化が子どもたちに影響を及ぼすのは非常に不

幸なことだと思えます。

山王幼稚園・保育園はこれからの地域で、未来を担う子どもたちのために頑張っていきたいと考えております。「子どもたちの声を聞く」と元気がでるね」そう言うてくださる地域の皆様に、ここまで支えていただきました。生まれた場所に関わらず、広い意味で地域の新たな担い手となる子どもたちのため、益々のご理解・ご協力をお願いし、寄稿とさせていただきます。これからもどうぞ宜しく願います。



ひきこもり世帯に対し 経験をどう活かすか



総社神社 総代
佐藤 宗春

日本国内の引きこもりの若者は七十万人と、百万人とも、言われています。以前は中学生、高校生の世代が中心でしたが、最近では、ひきこもりの年齢層も、高齢化が進み、二十代から三代四十代も多くみられるようになりしました。

以前はイライラの鋒先が家族に向かい暴力をふるっていました。今では、その数は減っています。むしろそのイライラが、自身自身に向けられリストカット等々の自傷行為が多くなっています。家族も同様に、親としての自分を責めたり、夫婦がお互いに責め合うなど、自分の子育てが間違っていたのではないかと自責の念にとらわれます。

親たちがここに至るまでは、

子どもの気持ちを考えなかったわけではない、真剣に考え続けてきたのです。ひきこもりは心の問題ではあるが、心の病気ではありません。

現在、子どもたちを取り巻く環境が非常に厳しくなっております。たとえば虐待、いじめ、ひきこもり等々の問題をかかえて子どもたちは、何らかのサインを送っています。そのことに気付くのが大人の責任です。子どもの声に耳をかたむけ、そして子どもの心に寄り添いつづけることで親子のきずなを深めていければと思います。

今この社会に求められている子育ての有り方を教えてくれているように思います。大人の決めた価値基準で子どもたちのランクづけをしています。私たちが大人が行政とか民間の枠をのり超えて手をたずさえて、子どもたちが心身共にまっとうに育つ環境を新たな視点に立って構築していくことだと思っています。

令和三年 小中学校児童生徒による

総社の杜俳句・川柳大会優秀作

本年は「総社の杜はじめ、地域の自然や行事を題材にしたもの」をテーマに地域の小中学校児童生徒より四百三十八点の応募作品が寄せられました。

厳正なる審査の結果、優秀作三十句が選出されました。
児童生徒たちの素晴らしい作品を是非ご鑑賞ください。

☆優 秀

子が集う総社の森は秘密基地 (山王中三年 平泉 舞桜)

風青し総社の杜の大合唱 (山王中三年 田代陽一朗)

神の森幾度想う古き友 (山王中三年 洲崎 奏樹)

秋を待つセミの鳴き声悲しけり (山王中三年 古山 冬馬)

儚げに揺れる香りは向日葵なつのはな (山王中三年 黒崎 眞歩)

真っ黒に染まったノートは夢一杯 (山王中三年 加藤 朱莉)

はすの葉に足跡残す蝸牛 (山王中三年 佐々木陸風)

寒空や願掛けをして春を待つ (山王中三年 田代 陽菜)

忘れたく無い思い出は木漏れの陽 (山王中三年 畠中 蒼)

夕立ちが町全体をつつみこむ (山王中三年 佐藤 良太)

新年に絵馬に願ったぼくの夢 (川尻小六年 高橋 瑠飛)



- 総社の葉 葉が舞う姿雨のよう
 木漏れ日の足跡たどる小さな子
 初もうで今年の運勢どうなるの
 つるし合う絵馬に家族の願い事
 総社の木みんなの優しいおじいさん
 初詣こま犬達よ見守って
 歴史あるこの大木に想いあり
 ゆかた着ておみこしをひく夏祭り
 総社の木夏の終わりは風すずし
 炎天下神社にひびくせみの声
 神々の思いが込もった総社の木
 人々の思い集まる総社の木
 自然の木虫の鳴き声おどりだす
 夏による虫の音色はオルゴール
 せみの声つられて走る神の家
 夏終わりとぎれとぎれのせみの声
 木漏れ日がいきれいにてらし光ゆく
 あたたかい木々のこもれびすきとおる
 秋田っ子総社の杜をかけ回る
- (川尻小六年 伊藤 舞垂)
 (川尻小六年 佐藤 蕃)
 (川尻小六年 清水 楓文)
 (川尻小六年 今野 和怜)
 (川尻小五年 橘 いちか)
 (川尻小五年 松田 侑大)
 (川尻小五年 川又 琉聖)
 (川尻小五年 児玉 玲奈)
 (川尻小五年 小玉 千歳)
 (旭南小六年 石田 柚)
 (旭南小六年 渡辺 楓晴)
 (旭南小六年 鎌田 悠成)
 (旭南小六年 小熊 悠斗)
 (旭南小六年 藤井 快)
 (旭南小五年 渡邊 夏姫)
 (旭南小五年 工藤 美琴)
 (旭南小五年 伊藤 陽彩)
 (旭南小五年 相場 美沙)
 (旭南小五年 奥山 幸誠)

水原帯秋田俳句会 菅原孤秋 選



神道の知識
いろいろ

☆「祓え」について

★「祓え」は神道における最も重要な観念です。神

を祀り祈りをささげる祭礼祭祀は、必ず清浄を旨とします。祭祀を行う齋場から供物、祭具、奉仕員、参列者に至るまで全て清められた状態で執り行われます。

祓えの目的は、常に正常或いは清浄な状態に保つことで心身に及びます。

祓えの始まりは、日本神話に登場するイザナギの神がイザナミの神を追って黄泉の国に行き、死の世界の穢れを落とすために川に身を沈めて注いで清めた故事とされています。

他には、海川の水を身に浴びたり、榊などの常緑樹の枝葉で清めたりして祓います。

さて、巻頭の写真にある「大祓式」という行事があります。

大祓式は、「大祓詞」という長い祝詞を宣読し、茅の輪を潜り抜け、次に白布を八ツに切り裂き、次に切麻と呼ばれる麻と紙を細かく切った物を

身体に注ぎ、更に形代と呼ばれる人形の紙で自身の体を撫で清め最後に祓えの言葉を奏上し天下を祓い、終始祓いの行事を重ねて清める行事です。

大祓の行事は、天平・奈良時代に天智天皇から藤原姓を賜った藤原鎌足の二男藤原不比等が平城京を築上後朱雀門の前で文武百官を集めて大祓詞を宣読した公的行事が、後に民間に広く伝わり全国的に行われるようになったと言われています。

藤原氏は姓を賜る前まで「中臣」と呼ばれ、神話の「天の岩屋戸」前で祝詞を奏上する家柄として藤原家に伝えられてきました。大祓詞には、葦原中国平定から天孫降臨し天孫が日本を治めることになるまでの日本神話が語られ、国民が犯してしまう罪の内容を「天つ罪・国つ罪」として、罪の祓い方が述べられています。後段では、祓えを行うと罪・穢れがどのようにして消滅するかが語られています。

このように、祓えは神々の世界(高天原)から地上(葦原の中つ国)に至

るまで全ての罪・穢れを祓い、清らかな世を作り上げる事を目標にしていると見えましよう。

★神社関係者訃報

生前敬神のご尽力に感謝申し上げます
哀悼の誠を捧げます

● 渡部治美殿(前神社総代)

令和二年十二月九日逝去

享年八十九歳

● 佐藤 一殿(前青年会長)

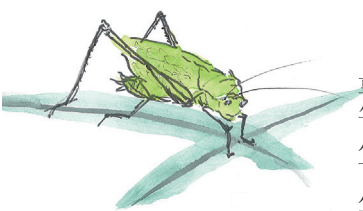
令和三年二月八日逝去

享年七十歳

● 高橋 仁殿(功労者)

令和三年八月十八日逝去

享年八十八歳



※本号のイラストは、水墨画家飯塚洋三先生にご揮毫いただきました

あとがき

今、「人流」と言う耳慣れない言葉が世界を駆け巡っています。

鎌倉時代、元の軍隊が二度に渡って日本に来襲した文永・弘安の役がありました。この事件は欧州から中国に通じたシルクロード沿いに猛毒の伝染病(ペスト)が流行拡大し人口が半減したことに起因しているそうです。

元のフビライは日本に人貢を求めたが幕府に拒否され、文永十一年と弘安四年に大軍(約十万)の兵で日本に攻めてきましたが、二度とも大風に遭い、元艦の沈没が相次ぎ引き帰ったそうです。お陰でペストは日本に上陸することなく流行がありませんでした。

また、幕末には米海軍軍人ペリー一行が二度に渡って来航し和親条約を結び鎖国から開国しましたら海外との人流が拡大し、明治にかけてペストをはじめ多くの伝染病が日本中に広まったそうです。

これら二つの例からもコロナ感染に人流の影響が大きいことが分かります。三密防止と人流を課題にして感染予防に努めていきたいものです。

(編集委員長 上村敦)